

言語文化学科授業科目表

別表 I の2 国際教養学部言語文化学科

部 門	科 目	単 位	必 修	選 択 必 修	選 択
科 学 科 基 礎 目 録	基礎演習	2	2		
	言語文化論	2	2		
	哲学 I	2	2		
	哲学 II	2	2		
外 国 語 科 目	基 礎 科 目	英語 I	1	4	
		英語 II	1	4	
		英語 III	1	3	
		英語 IV	1	3	
	進 展 科 目	スペイン語 I	1		4*
		スペイン語 II	1		4*
		スペイン語 III	1		4*
		スペイン語 IV	1		4*
		中国語 I	1		4*
		中国語 II	1		4*
		中国語 III	1		4*
		中国語 IV	1		4*
	進 展 科 目	韓国語 I	1		4*
		韓国語 II	1		4*
		韓国語 III	1		4*
		韓国語 IV	1		4*
英語上級		2	4		
英語演習 I		2			
英語演習 II		2			
上級英語演習 I		2		2	
上級英語演習 II		2			
翻訳通訳論・英語		2			
翻訳通訳実習・英語		2			
スペイン語上級		2		4*	
スペイン語演習	2				
翻訳通訳論・スペイン語	2				
翻訳通訳実習・スペイン語	2				
中国語上級	2		4*		
中国語演習	2				
翻訳通訳論・中国語	2				
翻訳通訳実習・中国語	2				
韓国語上級	2		4*		
韓国語演習	2				
翻訳通訳論・韓国語	2				
翻訳通訳実習・韓国語	2				
ス ペ イ ン ・ ラ テ ン ア メ リ カ 研 究 科 目 群	スペイン研究概論	2			
	ラテンアメリカ研究概論	2			
	スペインの言語と歴史・文化	2			
	スペイン語研究	2			
	スペイン語圏の文学	2			
	ラテンアメリカの歴史と文化	2			
	ラテンアメリカの政治と社会	2			
	ラテンアメリカの経済と社会	2			
	ラテンアメリカ近現代史	2			
	ラテンアメリカの国際関係	2			
ラテンアメリカ経済発展論	2				
ブラジル研究	2				
スペイン・ラテンアメリカ特殊研究	2				
中 国 研 究 科 目 群	中国研究概論	2			
	中国言語文化論	2			
	中国社会論	2			
	中国地域論	2			
	現代中国論 I	2			
	現代中国論 II	2			
	中国史 I	2			
	中国史 II	2			
中国特殊研究	2				
韓 国 研 究 科 目 群	韓国研究概論	2			
	韓国社会論 I	2			
	韓国社会論 II	2			
	韓国経済論	2			
	韓国史	2			
	韓国前近代史	2			
	日韓比較文化論	2			
	日韓比較教育論	2			
	日韓交流史	2			
	韓国研究情報収集法	2			
韓国政治論	2				
韓国特殊研究	2				

日 本 研 究 科 目 群	日本研究概論 I	2		
	日本研究概論 II	2		
	日本文学論・古代 I	2		
	日本文学論・古代 II	2		
	日本文学論・中世 I	2		
	日本文学論・中世 II	2		
	日本文学論・近現代 I	2		
	日本文学論・近現代 II	2		
	民俗学	2		
	日本史概論 I	2		
	日本史概論 II	2		
	日本史研究 I	2		
	日本史研究 II	2		
	日本史研究 III	2		
日本史研究 IV	2			
日本特殊研究	2			
言 語 教 育 研 究 科 目 群	言語学概論	2		
	英語学概論	2		
	日本語教育概論	2		
	応用言語学 I	2		
	応用言語学 II	2		
	英語圏の文学 I	2		
	英語圏の文学 II	2		
	英語圏の文学・文化・批評 I	2		
	英語圏の文学・文化・批評 II	2		
	国際共通語としての英語	2		
	授業研究と実践	2		
	教材研究と実践	2		
	早期外国語教育	2		
	英語研究専門講読	2		
	日本語教授法 I a	2		
	日本語教授法 I b	2		
	日本語教授法 II	2		
	日本語音声学	2		
	日本語文法論 I	2		
	日本語文法論 II	2		
日本語コミュニケーション論	2			
英語教育特殊研究	2			
日本語教育特殊研究	2			
グ ロー バ ル 社 会 研 究 科 目 群	異文化間コミュニケーション I	2		
	異文化間コミュニケーション II	2		
	多文化共生研究 I	2		
	多文化共生研究 II	2		
	比較文化論	2		
	大衆文化論	2		
	ローカル・メディア論	2		
	英語圏の文化	2		
	英語圏事情	2		
	法律学概論	2		
	政治学概論 I	2		
	政治学概論 II	2		
	経済学概論	2		
	国際関係論	2		
	国際協力論	2		
	南北問題	2		
	NGO論	2		
	国際政治論	2		
	国際経済論 I	2		
	国際経済論 II	2		
日本政治外交史 I	2			
日本政治外交史 II	2			
市民生活と法 I	2			
市民生活と法 II	2			
国際機構と法	2			
地域研究論	2			
東南アジアの開発と社会	2			
アメリカ合衆国のラティノ社会	2			
グローバル社会特殊研究	2			

60**

人間発達科学研究科目群	教職論	2			
	教育原論	2			
	心理学概論 I	2			
	心理学概論 II	2			
	スポーツ・レクリエーション概論	2			
	スポーツ科学概論	2			
	教育の歴史 I	2			
	教育の歴史 II	2			
	教育制度	2			
	教育課程論	2			
	道徳教育の理論と実践	2			
	特別活動論	2			
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			
	教育方法論	2			
	生徒指導と進路指導	2			
	特別支援教育論	2			
	教育心理学	2			
	社会心理学 I	2			
	社会心理学 II	2			
	教育相談	2			
	人間発達科学特殊研究	2			
	総合科学研究科目群	社会学概論 I	2		
		社会学概論 II	2		
		文化人類学 I	2		
		文化人類学 II	2		
		倫理学概論 I	2		
		倫理学概論 II	2		
		外国史概論 I	2		
		外国史概論 II	2		
		文化史入門	2		
		東洋思想史 I	2		
		東洋思想史 II	2		
		文明史研究 I	2		
文明史研究 II		2			
比較宗教史		2			
地中海世界の宗教と文化 I		2			
地中海世界の宗教と文化 II		2			
世界の宗教と文化 - 一神教と多神教 -		2			
科学史 I		2			
科学史 II		2			
科学技術基礎論 I		2			
科学技術基礎論 II		2			
数学 I		2			
数学 II		2			
物理学 I		2			
物理学 II		2			
天文学 I		2			
天文学 II		2			
生物学 I		2			
生物学 II		2			
生理学 I		2			
生理学 II		2			
地球環境論 I		2			
地球環境論 II		2			
コンピュータと言語		2			
情報科学各論 I		2			
情報科学各論 II		2			
データ構造とアルゴリズム論		2			
データベース論		2			
社会調査法		2			
統計と調査法		2			
総合科学特殊研究		2			

免許科目	英語科教科教育法 I	2			
	英語科教科教育法 II	2			
	英語科教科教育法 III	2			
	英語科教科教育法 IV	2			
	社会科教育法 I	2			
	社会科教育法 II	2			
	社会・地理歴史科教育法 I	2			
	社会・地理歴史科教育法 II	2			
	社会・地理歴史科教育法 III	2			
	社会・公民科教育法 I	2			
	社会・公民科教育法 II	2			
	全学共通授業科目 (別表Ⅳ ↓)	全学総合講座部門		2	
		全学共通講義科目部門			
		全学共通実践科目部門			
スポーツ・レクリエーション部門			2		
全学共通授業科目 (別表Ⅳ ↓)	外国語部門 (英語以外)				
	日本語部門***				
	英語部門****				
演習	2	8			
卒業研究	2	4			
卒業論文	4	4			
卒業に必要な単位数合計				46 22 60 128	

備考

- (1) *は外国語科目の「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」から一言語を選択する。
 - (2) 選択の60単位は**より履修するものとする。なお、選択する科目のうち30単位以上は、スペイン・ラテンアメリカ研究科目群、中国研究科目群、韓国研究科目群、日本研究科目群、言語教育研究科目群、グローバル社会研究科目群、人間発達科学研究科目群、総合科学研究科目群から、2研究科目群を選び、その中から履修する。
 - (3) 免許科目は、教職課程履修者のみ履修することができる。
 - (4) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部の科目の単位をもって代用できる。ただし、教職課程履修者は、他学部および免許科目の単位をもって代用できる。
 - (5) ***日本語部門は、外国人学生および帰国学生が、別に定める規程に基づき履修することができる。
 - (6) ****言語文化科学学生は、「全学共通授業科目 外国語科目群」の英語部門は履修することができない。
- 本表は、2019年度入学者から適用する。ただし、2018年度以前に入学した者ならびに2019年度以前に第2学年に入学した者および2020年度以前に第3学年に入学した者については、なお従前の例による。

言語文化学科科目特性表

部 門	科 目	学期配当								備 考	
		1	2	3	4	5	6	7	8		
学科基盤科目	基礎演習	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
	言語文化論	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
	哲学Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
	哲学Ⅱ									●	○
基盤科目	英語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
	英語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	○	〃
	英語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	○	〃
	英語Ⅳ				●	○	○	○	○	○	〃
	スペイン語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
	スペイン語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	○	〃
	スペイン語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	○	〃
	スペイン語Ⅳ				●	○	○	○	○	○	〃
	中国語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
	中国語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	○	〃
	中国語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	○	〃
	中国語Ⅳ				●	○	○	○	○	○	〃
	韓国語Ⅰ	●	○	○	○	○	○	○	○	○	クラス指定
	韓国語Ⅱ		●	○	○	○	○	○	○	○	〃
	韓国語Ⅲ			●	○	○	○	○	○	○	〃
	韓国語Ⅳ				●	○	○	○	○	○	〃
外国語科目	英語上級				●	○	○	○	○	○	クラス指定
	英語演習Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	副題が異なれば重複履修可
	英語演習Ⅱ					●	○	○	○	○	
	上級英語演習Ⅰ					●	○	○	○	○	
	上級英語演習Ⅱ					●	○	○	○	○	
	翻訳通訳論・英語					○	○	○	○	○	
	翻訳通訳実習・英語					○	○	○	○	○	
	スペイン語上級					●	○	○	○	○	クラス指定
	スペイン語演習					○	○	○	○	○	重複履修可
	翻訳通訳論・スペイン語					○	○	○	○	○	
	翻訳通訳実習・スペイン語					○	○	○	○	○	
	中国語上級					●	○	○	○	○	クラス指定
	中国語演習					○	○	○	○	○	重複履修可
	翻訳通訳論・中国語					○	○	○	○	○	
	翻訳通訳実習・中国語					○	○	○	○	○	
	韓国語上級					●	○	○	○	○	クラス指定
韓国語演習					○	○	○	○	○	重複履修可	
翻訳通訳論・韓国語					○	○	○	○	○		
翻訳通訳実習・韓国語					○	○	○	○	○		
スペイン・ラテンアメリカ研究科目群	スペイン研究概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカ研究概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	スペインの言語と歴史・文化			○	○	○	○	○	○	○	
	スペイン語研究			○	○	○	○	○	○	○	
	スペイン語圏の文学			○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカの歴史と文化			○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカの政治と社会			○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカの経済と社会			○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカ近現代史			○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカの国際関係			○	○	○	○	○	○	○	
	ラテンアメリカ経済発展論			○	○	○	○	○	○	○	
	ブラジル研究			○	○	○	○	○	○	○	
スペイン・ラテンアメリカ特殊研究			○	○	○	○	○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。	
中国研究科目群	中国研究概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	中国言語文化論			○	○	○	○	○	○	○	
	中国社会学論			○	○	○	○	○	○	○	
	中国地域論			○	○	○	○	○	○	○	
	現代中国論Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	現代中国論Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	中国史Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	中国史Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	中国特殊研究			○	○	○	○	○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。
	韓国研究科目群	韓国研究概論	○	○	○	○	○	○	○	○	
韓国社会学論Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○		
韓国社会学論Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○		
韓国経済論			○	○	○	○	○	○	○		
韓国史			○	○	○	○	○	○	○		
韓国前近代史			○	○	○	○	○	○	○		
日韓比較文化論			○	○	○	○	○	○	○		
日韓比較教育論			○	○	○	○	○	○	○		
日韓交流史			○	○	○	○	○	○	○		
韓国研究情報収集法			○	○	○	○	○	○	○		
韓国政治論			○	○	○	○	○	○	○		
韓国特殊研究			○	○	○	○	○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。	

日本研究科目群	日本研究概論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本研究概論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本文学論・古代Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本文学論・古代Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本文学論・中世Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本文学論・中世Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本文学論・近現代Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本文学論・近現代Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	民俗学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本史概論Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本史概論Ⅱ	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	
	日本史研究Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	日本史研究Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	日本史研究Ⅲ			○	○	○	○	○	○	○	
	日本史研究Ⅳ			○	○	○	○	○	○	○	
	日本特殊研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。
言語教育研究科目群	言語学概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	英語学概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	日本語教育概論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	応用言語学Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	応用言語学Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	英語圏の文学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	英語圏の文学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	国際共通語としての英語			○	○	○	○	○	○	○	
	授業研究と実践										
	教材研究と実践										
	早期外国語教育										
	英語研究専門講読										
	日本語教授法Ⅰa							◎	◎	◎	
	日本語教授法Ⅰb								◎	◎	
日本語教授法Ⅱ								◎	◎		
日本語音声学								○	○		
日本語文法論Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	○	○	○		
日本語文法論Ⅱ	○	◎	○	○	○	○	○	○	○		
日本語コミュニケーション論	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
英語教育特殊研究								○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。
日本語教育特殊研究								○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。
グローバル社会研究科目群	異文化間コミュニケーションⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	異文化間コミュニケーションⅡ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	多文化共生研究Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	多文化共生研究Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	比較文化論			○	○	○	○	○	○	○	
	大衆文化論			○	○	○	○	○	○	○	
	ローカル・メディア論			○	○	○	○	○	○	○	
	英語圏の文化			○	○	○	○	○	○	○	
	英語圏事情			○	○	○	○	○	○	○	
	法学概論			○	○	○	○	○	○	○	
	政治学概論Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	政治学概論Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	経済学概論			○	○	○	○	○	○	○	
	国際関係論			○	○	○	○	○	○	○	
	国際協力論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	南北問題	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	NGO論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	国際政治論			○	○	○	○	○	○	○	
	国際経済論Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	国際経済論Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	日本政治外交史Ⅰ			○	○	○	○	○	○	○	
	日本政治外交史Ⅱ			○	○	○	○	○	○	○	
	市民生活と法Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	市民生活と法Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	国際機構と法			○	○	○	○	○	○	○	
	地域研究論			○	○	○	○	○	○	○	
東南アジアの開発と社会			○	○	○	○	○	○	○		
アメリカ合衆国のラティノー社会			○	○	○	○	○	○	○		
グローバル社会特殊研究			○	○	○	○	○	○	○	副題によって学期配当が異なる。副題が異なれば重複履修可。	

人間発達科学研究科目群	教職論	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育原論		○	○	○	○	○	○	○	
	心理学概論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	心理学概論Ⅱ			○	○	○	○	○	○	
	スポーツ・レクリエーション概論	○	○	○	○	○	○	○	○	
	スポーツ科学概論	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育の歴史Ⅰ			○	○	○	○	○	○	
	教育の歴史Ⅱ			○	○	○	○	○	○	
	教育制度			○	○	○	○	○	○	
	教育課程論			○	○	○	○	○	○	
	道徳教育の理論と実践			○	○	○	○	○	○	
	特別活動論			○	○	○	○	○	○	
	総合的な学習の時間の理論と実践			○	○	○	○	○	○	
	教育方法学			○	○	○	○	○	○	
	生徒指導と進路指導			○	○	○	○	○	○	
	特別支援教育論	○	○	○	○	○	○	○	○	
	教育心理学	○	○	○	○	○	○	○	○	
	社会心理学Ⅰ			○	○	○	○	○	○	
	社会心理学Ⅱ			○	○	○	○	○	○	
	教育相談			○	○	○	○	○	○	
人間発達科学特殊研究	○	○	○	○	○	○	○	○	副題によって 学期配当が異 なる。副題が 異なれば重複 履修可。	
総合科学研究科目群	社会学概論Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	○	○	
	社会学概論Ⅱ	○	◎	○	○	○	○	○	○	
	文化人類学Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	○	○	
	文化人類学Ⅱ	○	◎	○	○	○	○	○	○	
	倫理学概論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	倫理学概論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	外国史概論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	外国史概論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	文化史入門	○	○	○	○	○	○	○	○	
	東洋思想史Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	東洋思想史Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	文明史研究Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	文明史研究Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	比較宗教史	○	○	○	○	○	○	○	○	
	地中海世界の宗教と文化Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	地中海世界の宗教と文化Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	世界の宗教と文化――神教と多神教――	○	○	○	○	○	○	○	○	
	科学史Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	科学史Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	科学技術基礎論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	科学技術基礎論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	数学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	数学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	物理学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	天文学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	天文学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	
	生物学Ⅰ	◎	○	○	○	○	○	○	○	
	生物学Ⅱ	○	◎	○	○	○	○	○	○	
	生理学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	
生理学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○		
地球環境論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○		
地球環境論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○		
コンピュータと言語	○	○	○	○	○	○	○	○		
情報科学各論Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○		
情報科学各論Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○		
データ構造とアルゴリズム論			○	○	○	○	○	○		
データベース論			○	○	○	○	○	○		
社会調査法			○	○	○	○	○	○		
統計と調査法			○	○	○	○	○	○		
総合科学特殊研究	○	○	○	○	○	○	○	○	副題によって 学期配当が異 なる。副題が 異なれば重複 履修可。	
免許科目	英語科教科教育法Ⅰ			○	○	○	○	○	○	教職課程 登録者の み履修可 能。
	英語科教科教育法Ⅱ				○	○	○	○	○	
	英語科教科教育法Ⅲ				○	○	○	○	○	
	英語科教科教育法Ⅳ				○	○	○	○	○	
	社会科教育法Ⅰ			○	○	○	○	○	○	
	社会科教育法Ⅱ				○	○	○	○	○	
	社会・地理歴史科教育法Ⅰ			○	○	○	○	○	○	
	社会・地理歴史科教育法Ⅱ				○	○	○	○	○	
	社会・地理歴史科教育法Ⅲ				○	○	○	○	○	
	社会・公民科教育法Ⅰ				○	○	○	○	○	
社会・公民科教育法Ⅱ				○	○	○	○	○		
演習			●	●	●	●	○	○		
卒業研究							●	●		
卒業論文							●			

備考

学期配当欄の○印は履修できる学期を、●は履修すべき学期を示します。
◎は履修が望まれる学期を示します。ただし、配当が標準と異なる場合があります。
*特殊研究は、副題により学期配当が異なります。配当学期は、シラバスおよび授業時間割表で確認してください。副題が異なれば、重複履修することができます。

言語文化学科のカリキュラム

履修にあたって

私たち教員は、国際教養学部言語文化学科を、人間が人間としてどうあるべきかを考え、それを自分から探し出し、そして実践することができる、しかもその実践の場は日本のみならず世界各国であるような人間を育てたいと考えて設立しました。つまり、この学部の4年間の勉学・研究そして生活を通じて、人間として一番大切なところを、他者との交流と他者理解を通じて見つけ出し、養ってほしいのです。そのための基礎的な知識が教養です。私たちは、あなた方が国際社会を舞台に教養を具えて活躍し、人間が人間としてあるべきことを行えるように、教養を学問の面から全面的に支援します。

上のような考え方でできた国際教養学部で大切にしていることがあります。それは、学生同士、学生と教員が、互いに知り合いになることです。だから、私たち教員は学生に声をかけます。あなた方もあなた方同士で、それに教員と知り合いになるために、挨拶の声をかけましょう。そしてそれに応えて返事をしましょう。それが他者を知る第一歩なのです。教養を身に付ける第一歩なのです。

クラス

国際教養学部では1学年の「基礎演習」という科目が、入学時の所属「組」となります。2・3学年では「演習」、4学年では「卒業研究」が、実質上の「組」の役割を果たします。履修などについて疑問がある場合は、これらの科目の担当教員（クラスアドバイザーや指導教員）もしくは教務課に相談してください。

カリキュラム

国際教養学部のカリキュラムは、

- ・ 学科基盤科目
- ・ 外国語科目
- ・ 研究科目
- ・ 免許科目
- ・ 演習・卒業研究・卒業論文
- ・ 全学共通授業科目

の6種類に分類できます。詳細はこの手引に書かれている各科目の説明を参照してください。

当学部では各科目を幅広く履修することが可能です。自分自身の興味と能力にしたがって、いわば自分独自のカリキュラムを作ることができます。しかし一方で、無計画に科目を履修した場合、本来大学で学ぶべきものが散漫なままに終わってしまうという危険性もあります。

まとまりのある体系的な学問知識を得るためには、自分が大学4年間を通して何を学ぶかという目標を立て、そのためにはいつ、どの科目を履修すべきかを常に考えておくことが重要です。履修計画を策定する際はこの手引や各年度の『シラバス』を熟読し、オリエンテーションやガイダンスには必ず出席するようにしてください。

学科基盤科目

学科基盤科目はすべて必修で、「基礎演習」「言語文化論」「哲学Ⅰ」「哲学Ⅱ」の4科目があります。このうち「哲学Ⅱ」以外は1学年、「哲学Ⅱ」は4学年（7学期または8学期）で履修します。

「基礎演習」は1学年の春学期（1学期）に履修します。大学生活の基盤になる項目を身につけ、同時に大学4年間の履修計画を作るという大切な役割をもつ科目です。

「言語文化論」は、後で説明する研究科目群の「目次・索引」の役割を果たす科目です。それぞれの科目群の教員をゲストに概論的な講義を行います。

「哲学Ⅰ」は、「人間と世界との関係」「諸文化の交流」「教養は平和を実現するのか」「他者の意味」「言語の意味」などの課題についてグループで取り組み、研究調査・討議を行うことによって、大学で学ぶための出発点を定める授業です。この出発点に対して「到達点」を見出すのが「哲学Ⅱ」で、「哲学Ⅰ」で考えた課題の卒業前の総仕上げの意味を持ちます。

外国語科目

国際教養学部では、2つの外国語を併習します。以下の4つの組み合わせから1つを入学時に選択して履修します。

- ・英語とスペイン語
 - ・英語と中国語
 - ・英語と韓国語
 - ・日本語と(英語・スペイン語・中国語・韓国語の母語以外の言語の中から1言語)(外国人学生用)
- なお、選択した外国語の組み合わせは原則として変更はできません。

外国語科目は、「I」から「上級」まであり、すべて必修です。基本的には1学年(1学期)に各言語の「I」を履修し、ついで学期を追って「II」「III」……と進み、2学年(4学期)に「IV」を履修します。その後、各言語の上級を3学年(5学期または6学期)に履修します。「I」～「IV」は週4コマ授業(4単位)、「英語III・IV」は週3コマ(3単位)なので、2つの外国語の授業が、1学年は週に計8コマ、2学年は週に計7コマあることとなります。1学年(1学期)から3学年(6学期)まで、2種類の言語をそれぞれ20単位ずつ、合計で40単位学習します。

さらに語学学習を進めたい人は、外国語科目の中にある進展科目を「英語演習I」は2学年(3学期)から、それ以外は3学年(5学期)から履修できます。また、「英語演習II」・「上級英語演習I」・「上級英語演習II」のいずれか1科目(2単位)が選択必修となりますが、「上級英語演習I」・「上級英語演習II」については教職課程(英語)履修者を主たる対象としています。個別のテーマを扱う語学クラス、上級の語学クラスなどさまざまな科目があります。

外国語の履修クラスについては、英語はTOEIC® LISTENING AND READING TESTの結果および前年度の成績をもとに習熟度別にクラス編成が行われます。それ以外の外国語については、『授業時間割表』で確認してください。

研究科目

研究科目は、以下の8つの「群」に分けられています。

- ・スペイン・ラテンアメリカ研究科目群
- ・中国研究科目群
- ・韓国研究科目群
- ・日本研究科目群
- ・言語教育研究科目群
- ・グローバル社会研究科目群
- ・人間発達科学研究科目群
- ・総合科学研究科目群

外国語科目進展科目や全学共通授業科目などの選択によって変わりますが、この8つの科目群から複数の科目群を選んで60単位、30科目ほどを4年間で選択履修します。

なお、選択60単位のうち30単位以上は8つの研究科目群の中から2研究科目群を選択し、修得する必要があります。2研究科目群で合計30単位以上になるように履修してください。

以下、研究科目群それぞれの概要を簡単に掲げます。詳細は、『シラバス』を参照してください。また「言語文化論」の授業内容も参考にしてください。

スペイン・ラテンアメリカ研究科目群

スペイン語履修者を主な対象として、スペイン語圏およびブラジル、カリブ海地域の総合的地域理解を目的とする科目群です。他文化の社会を理解しようとするとき、言語以外に、その社会の歴史や文化、抱える現代的問題など広い知識と他地域との相互関係への理解が必要です。そのための歴史、政治、経済、社会、文化・芸術、言語関連の科目を用意しています。この科目群を主フィールドにする学生には、1年次には「研究概論」、2年次には各「専門」科目の履修を求めます。3年次以降は「特殊研究」および「スペイン語演習」の履修が一般的モデルとなります。進路は、マスコミ・出版・広告分野、運輸流通・製造業などでスペイン語圏と関係のある企業、研究職・国際機関勤務志望者は大学院、国際理解を広める教員、外国人担当の自治体職員、海外支援NPO職員などが考えられます。

中国研究科目群

日本の歴史に絶大な影響を与え、かつまた現代日本にとって圧倒的な存在感のある中国について、基本的な知識を幅広く身につけるとともに、いかに理解していけばよいのかを学ぶ研究科目群です。

「中国研究概論」や「中国言語文化論」は中国語の選択履修を離れても基礎教養として役立つでしょう。中国という大きな対象に切り込んでいく糸口を探ることに繋げてほしいのは「中国社会論」・「中国地域論」や「中国史Ⅰ・Ⅱ」等々の科目であり、興味を持ち掘り下げて考えることのできる中国特殊研究の各科目が用意されています。中国語の運用能力の向上を目指す姿勢も堅持してください。

韓国研究科目群

韓国の言語、文化、社会、教育、ジェンダー、日韓交流史などについての理解と基本的な知識を総合的に幅広く身につけることを目標とする科目群です。韓国の映画およびドキュメンタリーなどを通し現代韓国の文化・歴史的背景を理解する授業、朝鮮半島分断の歴史と現状や韓国経済の成長要因過程における社会変貌などを扱う授業、さらに「異文化比較」「教育とジェンダー」などのテーマを扱う授業があります。さまざまな「各論」授業に対しては履修者の積極的な参加を望みます。この科目群を主フィールドとした学生は、いわゆる韓国通になることができるでしょうが、そのためには、韓国語でのコミュニケーション力が重要です。まず「韓国研究概論」から開始してください。

日本研究科目群

たとえ現代日本を研究するとしても、その背景や基盤に大変に長い歴史と厚みのある文化があることを理解しなければ、考察はうわべだけの、内容の薄いものになってしまいます。他の研究科目群の中にも現代日本や日本文化に関わる科目はたくさんありますが、長い国際交流の歴史の中で育まれた日本の多面的な文化を理解するためには、やはり基本的な知識や理解をまず手に入れる必要があります。そこで、日本研究科目群には、文学と歴史学を中心とする、日本と日本文化を理解するための基本的な科目が並んでいます。まず「日本研究概論Ⅰ」は、日本文化論で日本文化に対する見方を養い、「日本研究概論Ⅱ」でアジアの中の日本語の位置を考えます。その後には「日本文学論」「民俗学」「日本史」という日本理解のための基礎的な方法論を学ぶ科目が控え、さらに「日本特殊研究」という特殊研究科目で個別的な研究へと進んでいきます。

言語教育研究科目群

本科目群では、英語と日本語それぞれについて教職を目指す学生のために言語学習理論・言語教授法・教科教育法・教材研究などの基幹分野の科目を提供すると共に、より広い言語学習環境理解のための応用言語学・社会言語学や文化の諸相に触れる機会を設けています。また、教職志望でない学生でも、言語学習・教育について専門性の高い勉学を行い卒業研究に繋がる研究を行うことが可能です。概論科目（「言語学概論」・「英語学概論」・「日本語教育概論」）ではそれぞれの分野で扱う話題の基本概念を学ぶと共にその広がりを理解することを目標とします。特殊研究科目（「英語教育特殊研究」・「日本語教育特殊研究」）ではより実践的・個別的な話題について知識と技能を高めることを目標とします。これらの他にも各分野の専門性を高めるための理論科目・関連科目が用意されています。言語を教えるための訓練を通して、自分自身の言語能力を高め、洞察力を深めることができるようになるでしょう。言語教育は直ぐに成果が得られるものではありませんが、学習者の成長の手助けをし、その未来を信ずることで社会に対して貢献することになります。

グローバル社会研究科目群

本科目群は、さまざまな政治的・社会的・文化的背景をもつ人々が共存する国際社会に関わる基本的かつ重要な論点について多角的かつ総合的に学ぶことを目的としています。便宜的に「グローバル社会」という名称を用いていますが、そこに込められている意味は多元的です。つまり、この科目群では国家や非国家（国際機関、市民組織、民族集団など）の行為主体が織りなす国際社会の構造やダイナミズムについて検討するとともに、さまざまな文化や価値観をもつ個人や集団が交流したり共生したり衝突したりしている身近な地域（ローカル）社会についても検討していきます。単に社会の実態に関する知識を身につけることだけにとどまらず、普遍化（グローバル化）の方向に働く秩序構築の動きをときに批判的に捉え、また社会の周縁に追いやられている人々や文化に目を向けることにも留意し、現代世界の直面する諸課題やその解決のための道程を見極める創造的で柔軟な思考力を涵養してください。

人間発達研究科目群

本科目群は教育学、心理学、健康・スポーツ科学を専門とする教員から構成されています。教育学分野の教員は、「学校教育における授業編成や特別活動の在り方の研究」「日本の教育の歴史と生活指導に関する研究」「アジアの教育制度や教育改革の比較研究」を行っています。心理学分野の教員は、「カウンセリングに関する理論的・実践的研究」「子どもの認知発達や学習メカニズムに関する研究」を行っています。健康・スポーツ科学分野の教員は、「生涯を健康で活力をもって過ごすための知識と方法・価値観に関する研究」「スポーツや運動場面での行動観察を通してヒトの意志決定のメカニズムについての研究」を行っています。本科目群の授業を通して、人間の発達について科学の見地から多角的にとらえる視点を養ってください。

総合科学研究科目群

本科目群は、大きく分けて3つの部門からなる総合的分野です。

第一に、人文科学・社会科学系の宗教、思想、文化、社会、歴史を概念的と同時に実践的に学習・研究する部門です。範囲は、日本を含めたアジアから、地中海地域、イスラム圏などを含みます。この部門の概論的学習、そしてより専門的な特殊研究を通じて、所謂人文・社会科学系の幅広い教養を身につけることができると同時に、文献や史・資料の扱い方を学び取ることができます。将来的な進路を決める際の基礎的な知識と判断基盤を得ることができますでしょう。

第二は、自然科学系の部門です。「科学史」「数学」「天文学」「物理学」「生物学」「生理学」「地球環境論」などの概論的科目の履修をした上で、より専門的な特殊研究を通じて、自然科学的な思考方法あるいは科学技術の論理を修得できます。この部門の学習・研究は、将来の論理的思考の基礎を築くことにより、人生の全般にわたって人文社会系とは異なった範囲での教養を身につけ、正確な論理的判断をするための基盤を得ることになるでしょう。

第三は、多言語情報処理の部門です。やはり、概論的科目と特殊研究の各論的科目からなります。この部門は3つの目的からなります。すなわち(1)基礎情報リテラシーを学ぶ、(2)コンピュータによる多言語処理の知識と技能を育てる、(3)コンピュータ全般にわたる基礎および応用能力を養う、の3つです。この部門を主フィールドにすることは、情報サービスをはじめ、貿易・物流・メーカーなどの業界において多言語文書の作成、翻訳や案内サービス、情報システムの使用や設計や保守などの進路に有益となるでしょう。

免許科目

免許科目は教職課程登録者のみ履修でき、原則として卒業要件、登録上限には含まれません。ただし、教職課程登録者は卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部および免許科目の単位をもって代用できます。

なお、免許科目は8つの研究科目群のカテゴリには入っていませんので注意してください。

「演習」「卒業研究」
「卒業論文」

2学年以降は、原則として国際教養学部所属の全専任教員が担当するゼミナールに所属し、以下のように演習系の科目を履修します。

- ・2学年「演習」
- ・3学年「演習」
- ・4学年「卒業研究」「卒業論文」

年度によって若干の差はありますが、約30前後の「演習」「卒業研究」科目がそれぞれ置かれ、扱う内容は教員によって様々です。「演習」「卒業研究」の担当教員は、各研究科目群の担当教員でもあることから、どの教員の「演習」「卒業研究」を選択するかは、どの研究科目群を中心として履修するかに関係します。したがって、「演習」「卒業研究」の選択は自分自身の「専門」の選択でもあるため、各自の「教養」プログラムを作るためにも、よく考えて選択してください。

「演習」の選択は、1学年の秋学期後半（2学期）に行います。2学年・3学年で同じ教員の演習を履修することも、3学年になるときに他の教員の演習に履修を変更することもできます。ただし定員があるので、希望通りの演習を履修できない場合があります。

「卒業研究」は、原則として、3学年で履修した「演習」と同じ教員の授業を履修しなければなりません。

「卒業研究」の成果は「卒業論文」としてまとめられ、提出されます。「卒業論文」の担当教員（指導教員）は、「卒業研究」と同一です。

「全学共通授業科目」

「全学総合講座」2単位と「スポーツ・レクリエーション」2単位が必修です。

卒業に必要な単位数

卒業するために必要な単位数は**128**単位です。

科目群等	必修	選択必修	選択
学科基盤科目	8単位	—	—
外国語科目（基盤科目、進展科目）	18単位	22単位	—
各研究科目	—	—	*
全学共通授業科目（全学総合講座部門） （全学共通講義科目部門） （全学共通実践科目部門） （スポーツ・レクリエーション部門）	2単位	—	60単位
	—	—	
	2単位	—	
演習	8単位	—	—
卒業研究	4単位	—	—
卒業論文	4単位	—	—
合計	46単位	22単位	60単位

*各研究科目は8つの研究科目群の中から2つを選択し、合計30単位以上を修得してください。

登録上限

各学期で登録できる単位の上限が設けられています。ただし、教職・司書教諭・司書課程の科目は、この中に含まれません。

1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期	7学期	8学期
22単位	22単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位

進級要件

1学期から8学期まで、修得単位数に関係なく進級できます。しかし、学期ごとに履修を積み重ねることが望まれる科目や、卒業に不可欠な科目もあります。自分の履修計画の妨げとならないよう、登録した単位は確実に修得するよう心がけてください。

休学した場合は、同一学期にとどまります。

科目の学期配当

学修の効果に配慮し、科目を履修できる学期・学年が示されています。P.94～95の「言語文化学科科目特性表」ならびに『授業時間割表』等を参照してください。

重複履修ができる科目

「英語演習Ⅰ・Ⅱ」は副題が異なれば、同一科目でも重複して履修できます。

「スペイン語演習」「中国語演習」「韓国語演習」は、原則として同一科目名でも重複して履修できます。

各研究科目群の「特殊研究」は副題が異なれば、重複して履修できます。

大学以外の教育施設等 における学修

外国語の資格などの大学以外の教育施設等における学修を本学の単位として認定することができます。詳しくはP.20を参照してください。

他学部科目の履修

履修上の注意

他の3学部の科目も履修することができます。

- ①卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、「他学部の科目の単位」をもって代用できます。ただし、教職課程登録者は、「他学部および免許科目の単位」をもって代用できます。なお、免許科目は教職課程登録者のみ履修できます。
- ②他学部科目は3学期から履修できます。
- ③他学部科目の学期配当にしたがい履修してください。学期配当は各学部の説明を参照してください。
- ④他学部科目のうち、次のものは履修することができません。
 - ・ 合併科目：国際教養学部と他学部で授業が合併で開講されている科目
 - ・ 類似科目：国際教養学部科目と類似した内容で開講されている科目
 - ・ その他：受講制限のある科目

免許及び資格課程

教職・司書教諭・司書

教育職員免許状および司書教諭・司書資格の取得を目指す学生のために、免許及び資格課程が設けられています。

複数外国語と諸地域の文化の習得を基本とした国際的な教養を身につける学部の特徴を生かすために、2教科の教員免許の取得を原則とします。幅広い教養に裏づけられた多面的な視野を持ち、現代的課題に積極的に答えていくことのできる教員の養成を目指しています。

履修開始学年（学期）は、教職課程は1学年（1学期）から、司書教諭・司書課程は2学年（3学期）からとなります。履修に際しては課程登録が必要となります。詳しくは「免許及び資格課程」のページを確認してください。

G.P.A.について

G.P.A.とはGrade Point Averageの略で、修得科目の評定平均値を示しています。G.P.A.は下記の計算式により算出しています。成績通知表に記載している他、留学申請時の要件などに用いられています。

$$\text{G.P.A.} = \frac{(4.0 \times \text{AAの修得単位数} + 3.0 \times \text{Aの修得単位数} + 2.0 \times \text{Bの修得単位数} + 1.0 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総登録単位数}^{*1,2}}$$

※1 総登録単位数には、F、FG、Xを含む。

※2 総登録単位数のうち、教職・司書教諭・司書課程科目の登録単位は分母から除く。

ただし、教職科目のうち、各教科教育法の登録単位は分母に含む。

1 学年 (1・2 学期)

登録できる単位数

1・2 学期で登録できる単位数は各学期**22**単位、合わせて**44**単位までです。ただし、教職課程科目はこの中に含まれません。

下表の必修および選択必修の22単位分の科目は、1・2 学期で履修してください。その他に研究科目・全学共通授業科目から22単位までを選択して履修してください。履修にあたっては、『授業時間割表』の中から該当するものを登録してください。

履修できる科目

必修・選択必修科目

部 門	科目名	単位数	備 考	
学科基盤科目	基礎演習	2単位		
	言語文化論	2単位		
	哲学 I	2単位		
外国語科目	基盤科目	英語 I (IE)	1単位×2	週2回 同一評価
		英語 I (W)	1単位	
		英語 I (S)	1単位	
		英語 II (IE)	1単位×2	
		英語 II (W)	1単位	
		英語 II (S)	1単位	
		スペイン語 I (総合1)	1単位	
		スペイン語 I (総合2)	1単位	
		スペイン語 I (入門)	1単位	
		スペイン語 I (会話)	1単位	
		スペイン語 II (総合1)	1単位	
		スペイン語 II (総合2)	1単位	
		スペイン語 II (基礎表現)	1単位	
		スペイン語 II (会話)	1単位	
		中国語 I (総合1)	1単位	
		中国語 I (総合2)	1単位	
		中国語 I (入門)	1単位	
		中国語 I (会話)	1単位	
		中国語 II (総合1)	1単位	
		中国語 II (総合2)	1単位	
		中国語 II (基礎表現)	1単位	
		中国語 II (会話)	1単位	
		韓国語 I (文法・読解1)	1単位	
		韓国語 I (文法・読解2)	1単位	
		韓国語 I (コミュニケーション1)	1単位	
		韓国語 I (コミュニケーション2)	1単位	
		韓国語 II (文法・読解1)	1単位	
		韓国語 II (文法・読解2)	1単位	
		韓国語 II (コミュニケーション1)	1単位	
		韓国語 II (コミュニケーション2)	1単位	

学科基盤科目

「基礎演習」

問題の捉え方・考え方、授業に臨む姿勢、レポートの作成法、コンピュータリテラシーなど、大学生生活の基盤になる項目を身につける1 学期の必修科目です。この授業では、各研究科目群の履修計画も作成します。

「言語文化論」

8 つの研究科目群の各分野の教員がゲストとして登場し、それぞれの分野について概論的な講義をします。今後選択する分野にはどのようなものがあり、どのような対象を研究するのかを理解するとともに、諸分野の基礎知識を身につけます。2 学期の必修となります。

「哲学 I」

国際教養学部で学ぶ出発点を定めるために、「諸文化の交流」「教養は平和を実現するのか」「他者の意味」「言語の意味」などといった課題についてグループで取り組み、研究調査および討論を行います。今後の4 年間の勉学と研究の意味を考えるための授業です。

外国語科目

「英語 I・II」

「英語 (IE)」 (=Integrated English) は、多様なテーマに基づく統合的学習を行います。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションです。「英語 (W)」 (=Writing) は、パラグラフライティングの基礎を学びます。「英語 (S)」 (=Speaking) は、言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養います。全ての英語科目の主要な使用言語は英語です。

3月に受験したTOEIC® LISTENING AND READING TEST等による習熟度別のクラス編成を行います。詳細は『授業時間割表』で確認してください。

「スペイン語 I・II」

「中国語 I・II」

「韓国語 I・II」

「スペイン語 I」「中国語 I」「韓国語 I」は1学期、「スペイン語 II」「中国語 II」「韓国語 II」は2学期の授業です。文法の基礎から簡単な文章の読解、基本的な表現力を養い、世界認識を広げるとともに、4学年までの学習の基盤とすることを目的としています。

「スペイン語 I」「中国語 I」は(総合)2コマと(入門)(会話)1コマずつ、「スペイン語 II」「中国語 II」は(総合)2コマと(基礎表現)(会話)1コマずつの授業からなります。「韓国語 I」「韓国語 II」は(文法・読解)2コマと(コミュニケーション)2コマの授業からなります。

スペイン語・中国語・韓国語は、履修クラスが指定されます。詳細は『授業時間割表』で確認してください。

選択科目

1・2学期で履修できる選択科目は「研究科目群」および「全学共通授業科目」で1・2学期向けに開講されているものです。合計22単位まで登録できます。『授業時間割表』を参照し、1・2学期で履修できる科目を選択してください。

研究科目群については、「言語文化学科科目特性表」(P.94~95)を参照して履修計画表を作り、それにしたがって計画的に履修してください。

各研究科目

スペイン・ラテンアメリカ研究科目群、中国研究科目群、韓国研究科目群、日本研究科目群、言語教育研究科目群、グローバル社会研究科目群、人間発達科学研究科目群、総合科学研究科目群のうちから、2つの研究科目群を選択し、卒業までに合計30単位以上を修得しなければなりません。その選択のための準備を1学年次の「基礎演習」「言語文化論」などを通して意識的に行う必要があります。

「スポーツ・レクリエーション」

国際教養学部では、全学共通授業科目の「スポーツ・レクリエーション」2単位が必修になっています。加えて履修した場合、2単位(必修と合わせて4単位)は卒業に必要な選択科目の単位に算入されます。

「全学総合講座」

幅広い教養を身につける基礎として、全学共通授業科目の「全学総合講座部門」を2単位必修にしています。4学年(8学期)までに『授業時間割表』から選択して履修してください。2単位を超えて修得した場合には、卒業に必要な選択科目の単位に算入されます。

演習

3学期から履修する「演習」の選択と決定を1学年の秋学期(2学期)後半に行います。「演習」の選択が大学生生活の4年間で学ぶことを統括し方向づけることとなります。研究科目群の選択および具体的な科目の選択のための準備を「基礎演習」「言語文化論」などを通して意識的に行う必要があります。

再履修

- ①1学期で履修すべき必修科目を未修得の学生は2学期で履修できる科目に優先して履修します。その際は『授業時間割表』の指示にしたがってください。
- ②科目により再履修の方法が異なります。再履修のクラスのある科目、次学期を待って履修する科目など、『授業時間割表』の指示にしたがい履修してください。
- ③再履修の科目と2学期の必修科目が同一曜日・時限で重なった場合は、教務課国際教養学部係に相談してください。

教職課程履修の注意

教職課程科目は卒業要件単位に含まれないため、履修登録上限単位数には含まれません。ただし、国際教養学部の開設科目と合併している科目(「教職論」「教育原論」など)は卒業要件に含まれます。これらは登録上限単位数にも含まれますので、学部で開設している科目名や時間割コードで履修登録をしてください。

「免許科目」部門に属する科目は、教職課程登録者のみ履修でき、原則として卒業要件、登録上限には含まれません。

ただし、教職課程登録者は卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部および免許科目の単位をもって代用できます。

外国人学生・帰国学生への注意

外国人学生は、日本語および日本事情に関する科目の履修を必修としています。また帰国学生は日本事情に関する科目を履修するほか、外国語に代えて日本語の履修を求めることがあります。詳細はガイダンスおよび面談等により説明しますので、指示にしたがい履修登録をしてください。

2学年（3・4学期）

登録できる単位数

3・4学期で登録できる単位数は各学期**24**単位、合わせて**48**単位までです。ただし、教職・司書教諭・司書課程科目はこの中に含まれません。

下表の必修および選択必修の18単位分の科目は、3・4学期で履修してください。その他に各研究科目・全学共通授業科目・他学部科目から選択して履修してください。履修にあたっては、『授業時間割表』の中から該当するものを登録してください。

履修できる科目

必修・選択必修科目

部 門	科 目 名	単 位 数	備 考	
外国語科目	基盤科目	英語Ⅲ (IE)	1単位×2	週2回 同一評価
		英語Ⅲ (W)	1単位	
		英語Ⅳ (IE)	1単位×2	週2回 同一評価
		英語Ⅳ (W)	1単位	
		スペイン語Ⅲ (総合)	1単位	スペイン語 中国語 韓国語 のいずれかひとつを選択
		スペイン語Ⅲ (講読)	1単位	
		スペイン語Ⅲ (会話1)	1単位	
		スペイン語Ⅲ (会話2)	1単位	
		スペイン語Ⅳ (総合)	1単位	
		スペイン語Ⅳ (講読)	1単位	
		スペイン語Ⅳ (会話1)	1単位	
		スペイン語Ⅳ (会話2)	1単位	
		中国語Ⅲ (総合)	1単位	
		中国語Ⅲ (講読)	1単位	
		中国語Ⅲ (会話1)	1単位	
		中国語Ⅲ (会話2)	1単位	
		中国語Ⅳ (総合)	1単位	
		中国語Ⅳ (講読)	1単位	
	中国語Ⅳ (会話1)	1単位		
	中国語Ⅳ (会話2)	1単位		
	韓国語Ⅲ (文法・読解1)	1単位		
	韓国語Ⅲ (文法・読解2)	1単位		
	韓国語Ⅲ (コミュニケーション1)	1単位		
	韓国語Ⅲ (コミュニケーション2)	1単位		
	韓国語Ⅳ (文法・読解1)	1単位		
	韓国語Ⅳ (文法・読解2)	1単位		
	韓国語Ⅳ (コミュニケーション1)	1単位		
	韓国語Ⅳ (コミュニケーション2)	1単位		
	演習		4単位	春・秋学期各2単位ずつ

外国語科目

「英語Ⅲ・Ⅳ」

1学年の「英語Ⅰ・Ⅱ」の成績および秋学期に受験したTOEIC® LISTENING AND READING TEST等の結果をもとに習熟度別のクラス編成を行います。詳細は『授業時間割表』で確認してください。

演習

2学期に決定した指導教員の「演習」を履修してください。

選択科目

各研究科目

スペイン・ラテンアメリカ研究科目群、中国研究科目群、韓国研究科目群、日本研究科目群、言語教育研究科目群、グローバル社会研究科目群、人間発達科学研究科目群、総合科学研究科目群のうちから、2つの研究科目群を選択し、卒業までに合計30単位以上を修得しなければなりません。計画的な科目履修を心がけてください。

再履修について

- ①1・2学期で履修すべき必修科目を未修得の学生は3・4学期で履修できる科目に優先して履修します。
- ②科目により再履修の方法が異なります。再履修のクラスのある科目、次学期を待つて履修する科目などがありますので、『授業時間割表』または教務課国際教養学部係の指示にしたがい履修してください。
- ③再履修の科目と3・4学期の必修科目が同一曜日・時限で重なった場合は、教務課国際教養学部係に相談してください。

3学年（5・6学期）

登録できる単位数

5・6学期で登録できる単位数は各学期**24**単位、合わせて**48**単位までです。
ただし、教職・司書教諭・司書課程科目はこの中に含まれません。
下表の必修および選択必修の14単位分の科目は、5・6学期で履修してください。

履修できる科目

必修・選択必修科目

部 門	科目名	単位数	備 考	
外国語科目	進展科目	英語上級	4単位	春・秋学期各2単位ずつ
		英語演習Ⅱ	2単位	英語演習Ⅱ・上級英語演習Ⅰ*・上級英語演習Ⅱ*のいずれかひとつを選択し、春学期または秋学期に2単位 *上級英語演習Ⅰ・Ⅱは教職課程（英語）履修者を主たる対象とする。
		上級英語演習Ⅰ	2単位	
		上級英語演習Ⅱ	2単位	スペイン語・中国語・韓国語のいずれかひとつを選択 春学期に4単位
		スペイン語上級	4単位	
		中国語上級	4単位	
	韓国語上級	4単位		
演習		4単位	春・秋学期各2単位ずつ	

外国語科目進展科目

各言語のⅠ～Ⅳで培ってきた語学力を用いて、さらに実用的な言葉の運用を目指し、実践力を養います。専門的な読み書きの能力まで確実に身につけることを目標とします。

「英語上級」

2学年の「英語Ⅲ・Ⅳ」の成績および秋学期に受験したTOEIC® LISTENING AND READING TEST等の結果をもとに習熟度別に応じてクラスが決定します。詳細は『授業時間割表』で確認してください。

「英語演習Ⅱ」

「英語演習Ⅱ」は副題が異なれば、同一科目でも重複して履修できます。

「上級英語演習Ⅰ」

「上級英語演習Ⅰ」は教職課程（英語）用の必修科目ですが、一定の条件を満たせば教職課程登録者でなくても履修できます。

「上級英語演習Ⅱ」

「上級英語演習Ⅱ」は教職課程（英語）用の選択科目ですが、一定の条件を満たせば教職課程登録者でなくても履修できます。

これらの科目の履修については、ガイダンス等でお知らせします。

「スペイン語上級」

指定のクラスで受講してください。

「中国語上級」

指定のクラスで受講してください。

「韓国語上級」

指定のクラスで受講してください。

「スペイン語演習」

原則的に同一科目名でも重複履修できます。

「中国語演習」

原則的に同一科目名でも重複履修できます。

「韓国語演習」

原則的に同一科目名でも重複履修できます。

選択科目

各研究科目

スペイン・ラテンアメリカ研究科目群、中国研究科目群、韓国研究科目群、日本研究科目群、言語教育研究科目群、グローバル社会研究科目群、人間発達科学研究科目群、総合科学研究科目群のうちから、2つの研究科目群を選択し、卒業までに合計30単位以上を修得しなければなりません。計画的な科目履修を心がけてください。

再履修について

- ①1～4学期で履修すべき必修科目を未修得の学生は5・6学期で履修できる科目に優先して履修します。
- ②科目により再履修の方法が異なります。再履修のクラスのある科目、次学期を待って履修する科目などがありますので、『授業時間割表』または教務課国際教養学部系の指示にしたがい履修してください。
- ③再履修の科目と5・6学期の必修科目が同一曜日・時限で重なった場合は、教務課国際教養学部係に相談してください。

4学年（7・8学期）

登録できる単位数

7・8学期で登録できる単位数は各学期**24**単位、合わせて**48**単位までです。
ただし、教職・司書教諭・司書課程科目はこの中に含まれません。
下表の必修の10単位分の科目は、7・8学期で履修してください。

履修できる科目

必修科目

部 門	科目名	単位数	備 考
学科基盤科目	哲学Ⅱ	2単位	
卒業研究		4単位	春・秋学期各2単位ずつ
卒業論文		4単位	

「哲学Ⅱ」

1学期の必修科目「哲学Ⅰ」で学んだ問題提起やものの考え方を、4年間の大学生活を振り返って省察し、さらに考えを進めることを目的とします。

「卒業研究」

「卒業論文」

専攻分野での研究をまとめあげ、諸研究の成果を確かなものとするのが目的です。なお、卒業論文で課題とされる研究成果の報告・発表については、必要な時期にあらためて説明します。原則としてこれらの科目は卒業再試験を行いません。

卒業について

卒業単位は**128**単位です。

履修登録の際に卒業条件を満たしているかどうかよく確認してください。

必修・選択必修として「学科基盤科目」8単位、「外国語科目」40単位、「全学共通授業科目」4単位、「演習」8単位、「卒業研究」4単位、「卒業論文」4単位、選択として「各研究科目群」「外国語科目進展科目」および「全学共通授業科目」から60単位、合計128単位以上を修得する必要があります。

また、8つの研究科目群の中から、2つの研究科目群を選択し、合計30単位以上を修得する必要があります。

卒業再試験

卒業に必要な単位のうち、4科目以内の単位不足の場合に受けられる試験です。

7・8学期に評価が「F」の科目に限り受験が認められ、科目担当教員が許可しない場合（評価が「FG」の科目）と、評価が「X」の科目は、受験できません。

ただし過去に卒業判定を受けたことがある学生（留年者）は、最終学期の履修登録科目のうち「F」であった科目のみが対象となります。必ずP.12の**卒業再試験**の項目を参照してください。

免許及び資格課程再試験

卒業要件を完全に満たした学生で、免許及び資格取得に必要な要件のうち2科目以内の単位が不足している者を対象に行われます。卒業発表と同時に、免許及び資格課程合格者、再試験対象者を発表します。